

## 2015 ITF サミットについて

平成 27 年 6 月 8 日  
OECD 日本政府代表部

1. 日時・場所  
5月27日（水）～29日（金）  
ドイツ・ライプツィヒ
2. 議長・副議長  
議長：ニュージーランド（サイモン・ブリッジ交通大臣）  
副議長：デンマーク（2016 議長）、メキシコ（2017 議長）  
2018 議長国にラトビアが決定。
3. テーマ  
Transport, Trade and Tourism  
（交通は、貿易トレンドの変化、サプライチェーンに対するショック、持続可能な観光、観光客のニーズ等にどう対応すべきか。）
4. プログラム  
大臣セッション（大臣声明の採択：別紙 等）、大臣ラウンドテーブル  
全体セッション、パネルセッション 等
5. 参加者  
ITF 加盟国閣僚級、企業幹部、国際機関幹部、有識者等、1,000 人程度
6. 日本からのスピーカー  
（1）国土交通省 武藤 浩 国土交通審議官  
大臣セッション、大臣ラウンドテーブル「国際化テロの時代における観光と航空セキュリティのあり方」等に参加。  
（2）九州旅客鉄道株式会社 津高 守 大分支社長  
全体セッション「交通と地域の発展：都市部をこえて広がる貿易と観光」に参加。
7. 特色  
（1）優れた研究成果の発表  
貨物輸送モデルによる将来需要と CO2 排出量の予測  
（本年の U. S. Transportation Research Board (TRB) における最優秀論文賞を受賞。）  
（2）タイムリーなセッション設定  
シェアリング・エコノミー（UBER など）、ドローン  
（3）COP21 に向けた気運の醸成

## 8. 参考

2012年：日本が議長国（ジョゼ・ヴィエガス現事務局長の選出等）。

2013年：新関西国際空港株式会社がITF2013最優秀賞を受賞。

大臣宣言「交通、貿易と観光」  
(ポイント)

1. 地球規模の貿易を容易にする交通
  - ・ 地球規模の経済的なバランスの変化と貨物量の増加に対応するための輸送サービスとインフラ政策の必要性を認識。
  - ・ 効率的かつ効果的なサプライチェーンの創出とシームレスで、自由で、より持続可能な物の輸送に焦点をあてたイニシアティブを推進。
  - ・ 港湾と接続した陸上交通の効率性、持続可能性を確保。
2. 地球規模の観光を可能にする交通
  - ・ 質の高い、信頼性のある、安全で、持続可能で、コスト・エフェクティブな交通の接続が重要。交通サービスとインフラは、あらゆる観光客のニーズに応えるものであるべき。
  - ・ 安全性確保のための一層の努力を要求。
  - ・ 環境に対する交通と観光のインパクトを認識し、公共交通のサービス提供と利用を促進。
  - ・ 新しい技術の活用を支持。
3. 貿易と観光に貢献する海上交通、鉄道、航空
  - ・ IMO との連携を通じた海上貿易・観光の促進、環境の保護、安全・セキュリティの向上。
  - ・ ICAO における持続可能な航空に向けた包括的な取組を支持。
  - ・ コスト・エフェクティブで、信頼のある、環境にやさしい交通手段として鉄道の潜在力を認識。
  - ・ 疫病の拡散を防ぐ効果的なコントロールシステムが政府の優先事項であり、国際的な協力分野であることを強調。
4. 新たな技術とデジタル化、モビリティ・サービスにおけるイノベーション
  - ・ 新たな技術とデジタル化が交通にもたらす利益を歓迎。
  - ・ 新たな技術、デジタル化、シェアリング・エコノミーが、フレキシブルな交通を提供し、環境負荷や渋滞を低減させ、リソースを最適化し、利用者利便を向上させる潜在力を有していることを認識。
  - ・ 規制の枠組みにおいては、この新たな経済の動きに対応しつつ、安全性、健康、環境への配慮が必要であることを認識。
5. 交通、貿易、観光のガバナンス向上
  - ・ レジリエントで、持続可能な地域発展のために、交通、貿易、観光の一体的な取組が重要。
  - ・ 関係省庁間、国・地方間の連携を促進。
6. COP21 に向けて：低炭素交通の追求
  - ・ COP21 による新しい国際的な気候変動合意は、地球規模の政策において低炭素交通の主流化を加速すると認識。